

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174700989), 法人名 (社会福祉法人 池田光寿会), 事業所名 (グループホームきよみ), 所在地 (北海道中川郡池田町西2条10丁目2-20), 自己評価作成日 (令和2年10月25日), 評価結果市町村受理日 (令和2年3月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・自然に恵まれて、列車を眺めながら食事が出来たり、静かな環境を感じていただける。
・法人が運営する各施設の協力もあり、地域にも支えていただきながら、利用者様や家族様にも安心していただけるよう連携しながら努力している。
・職員の福利厚生等も含め、働きやすい場所環境作り力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0174700989-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年2月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 運営の基本事項(環境・施設・設備の機能性・至便性等); 平屋2ユニットの間に花壇・畑・テラスがあり、寛ぎの居間・小上がり・食堂を囲んで、介護設備(トイレ・風呂等)が利用し易く配置、至便性が良い。
2) 職員の介護態度・姿勢; 職員は基本理念の共有に努め、利用者の安全・安心を本位に、その人らしい自立した支援となるよう、研修を積み、真摯な介護実践に取り組んでいる。
3) 家族等の介護への好感度; 家族は職員の明るく、家庭的、利用者個々への心配り、心身の変化に即応した連絡・報告・相談等の姿勢に好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況; 通例は町内会、包括支援C、家族、ボランティア等の参加を得て、定例開催。資料に基づき協議を重ねて運営に反映。現行は議案等を送り意向を伺っている。
5) 地域自治組織・機関等との連携; 関連福祉事業間の連携の下に、地域組織・機関・ボランティア活動等の協力を得るとともに、認知症事業の理解に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで唱和。理念に基づいたケアを意識し介護を心がけている。	職員は基本理念「利用者の人生歴等に添い、その人らしさを大切にし、安全で安心な生活支援等」を旨に、相互に共有して、学び、真摯な介護の実践に専念している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々を含め例年はボランティア様、そば打ち、理容、読み聞かせ、笑いヨガなど来訪していただいている。地元の自立支援作業所の手作りパン購入(コロナの為現在理容のみ)	通例は、地域自治組織や多様なボランティア活動・自立支援事業等の協力・支援を得て、利用者との交わりもあり、ホームの活性化に貢献を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の文化祭展示の作品展示。避難訓練時 町内会の方々に参加していただき運営推進委員にも公開した		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開いてホーム内の活動内容の報告し意見もいただく。会議録はいつでも見られるようになっていた。しばらくコロナで3密を避け 文書での報告をしている。	通例は定例の推進会議には、地域関係者、家族、包括支援センター等の参加を得て、運営の詳細(利用者状況・研修等)を資料で説明して、参加者の意見・意向を運営に反映するよう努めている。現行は議案送付で意向把握。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	SOSネットワークの情報の共有。保健センターとの連絡、運営推進会議に参加していただき取り組みを報告している	定例の推進会議参加や事故報告等での情報交換、利用者の支援に係る窓口、保健センター等の連携を密にして、行政の動向の把握に努めて運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議で身体拘束の勉強会も実施して全員が認識している。日中は施錠せず、行動の見守りをしている。夜間は防犯と安全のため施錠。	身体拘束委員会は定例に開催して、職員会議等でその検討内容を周知している。指定基準は介護の基本事項と受け止めて、職員相互の理解を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し会議で情報共有。定期的に勉強会を開く。(コロナであまり開けていない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学べる機会を見つけていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応し説明し法的改正があれば 文書にてご理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便りを出させてもらい 面会でも細かく聞き取りやお知らせをして 運営に役立っている。	通例は家族の来訪時の相談事項の受け止めや、利用者の状態を報告し、家族の意向把握に努めている。現行は、定例の「きよみだより」で行事等近況をのせ、生活状況報告と依頼事項を特筆して、家族の意向を伺っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開き意見交換。又朝のミーティングでも再確認している。	月例のケア会議にあつては、各職位の専門的な意向や観察事項等を傾聴し、組織運営や個々の意欲向上に活かしている。また、必要に応じて個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や個人面談で意見を聞き改善があれば努力して居る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標を持ち 外部研修には参加を勧めて職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加させてもらい意見交換をする上で勉強させていただく		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごと 混乱に対しゆっくりと1つ1つ不安を取り除き解決していく事を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の来訪時などホームでの生活の様子を報告させてもらい関係作りに不安を残さないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心に寄り添いながら家族様の意向に添い見極めながら対応が来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居心地の良い関係が作れるようリビングで仲良くつろがれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限がある中で 出来るだけ家族との絆を大切に本人に寄り添い支えていく関係作り		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で2月からは難しい。個別で対応することが多くなってきている。その方に合わせて個別レクもある。	家族との面会では、家族的馴染みある関係支援に努めている(現在は面会は自粛中である。)また、個別対応としてのレクにも留意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で対応することが多くなってきていて その方に合わせて対応出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じた情報の提供をさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすいよう耳を傾けている。会話の中から希望・意向に添えるよう努力をしている。	入所以来のアセスメントの継続記録等を基に、かつ、日常の生活の個々の言葉・動きの変化に留意して、利用者個々の思いや望みの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の調査表から生活歴、家族様からのお話を聞き共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、ケース記録から変化があるときは、ミーティング等で把握している。見極め必要な所のみ お手伝いしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で意見交換を行い家族様来訪時要望があればプランに盛り込む。	介護計画の作成にあつては、定例職員会議等の観察事項や心身の変化に応じた経過記録を基に、家族の意向も含め、計画作成者を軸に、最適案を作成して、職員相互・家族の理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に要点を簡素化し記録を行い 分かりやすく支援出来るよう職員間で生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度柔軟に対応出来るようにして法人の車を利用して外出が出来た。(コロナの為現在は、出来ていない)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、訪問理容で身だしなみを整えリフレッシュされている。以前はボランティア様の来訪で楽しまれていた。地元の商店や薬局を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診予定者あり。家族と通院される時情報提供書を持参していただいている。必要時電話やファックスも使用。	かかりつけ医のある場合は家族の協力も得ての支援に努め、情報提供書によるかかりつけ医や看護師の記録・連絡を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は配置されていないが、病院へ連絡し先生や看護師の指示をいただく。家族様には連絡入れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。退院近くなると相談員より状態などの情報をいただき早期退院の協力をしている。退院のムンテラにも同席させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事を十分に説明して方針を共有している。	入所者の状況(2年5月資料)は介護度(3以上)、平均年齢(90歳以上)の重度化・高齢化の状態にある。契約による医療対応等について、利用者の心身の変化に即応した医療機関・家族等の協議により最適な支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の協力で救命入門コースを全員で受講して身につけている。(今年はコロナの為実施出来ず)マニュアルの作成		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い町内会のも協力していただいている。例年であれば消防職員立ち会いで行うが、今年は自主訓練としている。	防災対応については、消防官署の指導、町内会・消防団等の協力を得て、職員の役割、設備点検等目的を想定した訓練に努めている。また備蓄等にも配慮している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには視線を合わせて話す。人生の先輩であり尊敬をし、人格を尊重しプライバシーを損ねないように対応している	職員は事業理念を旨に、介護の基本姿勢を共有して、利用者の尊厳・個性を損なうことのないように、「みて・きいて・たずねて、受け止める」対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の出来る事を見極めながら自己決定出来るよう働きかけている。食事メニューでは誕生日などをはじめ 好みを聞く		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく 利用者様のペースを優先するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時洗面、整髪介助。入浴時の着替えを選択 自己決定していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日に本人の希望のメニューを取り入れたり季節の旬な物 祝日を感じられる献立を取り入れるようにしている。食器ふきも手伝っていただいている。	週間の食事メニューを明示。季節・行事等や希望メニューを取り入れ、楽しく美味しい食事のときとして、食事後の片づけ等も協働している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮している。個々に食事チェック、水分チェックをしている。食後の口腔ケアの促し 介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施。協力歯科院より歯磨きの指導も受けている。(コロナで中止)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握。本人に合わせてリハビリパンツやパットの使い分けをし 支援している。定期誘導もしている。	排泄支援は、個々の状態に応じ、自立支援を基本に支援。個々の着衣等も、時に家族と相談して、最適な状態に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表のチェックの記入。情報の共有、起床時の牛乳の提供。繊維質の野菜の取り入れ。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調等に配慮しながら 希望に添っていけるよう努力している。	入浴支援は個々の心身の状態や当日の気分等を勘案して、寛げる、安らかなひと時となるよう、希望・タイミングを図って、全浴・シャワー等の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその日の体調や状況に応じて休息、安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員が理解していき日々症状の変化がないか観察していき 家族や医療機関への連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日10時からリビングに集まりラジオ体操やビデオ体操を実施。カラオケやパズル、オセロなど通して自立が維持出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は難しい。中庭の外気浴に取り組んでいる。家族との面会制限があり 窓越しとなる。	平屋2ユニットの間に花壇や畑、テラスを設けてある。この中庭で、季節の風を感じ、外気浴を味わい、花や植物の育ちが楽しめる。コロナ禍での制約もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っている方は自己管理としている。以前は手作りパンを買っていたが、今は中止となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが、電話したり携帯の代わりに毎日のようにハガキや手紙を出していただける方もいて職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやソファは好きなどころに座られてテレビなどを見られている。廊下も季節感や装飾を替えながら感じていただく工夫をしている。	各ユニットでは居間・食堂を中心に、小上がり、台所、トイレ、ふる等の介護設備が至便な距離にある。ユニット間に花畑やテラスを設けて、安らぎ・寛ぎ・季節感を味わえる居心地良い環境にある。居室の飾りつけ等も季節や行事に合わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座りやすい配置で テレビやお茶されたりゆったりと過ごされて居ます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具などを持ち込まれなじみの空間を作っている。	個々の居室づくりは、家族の協力が不可欠で、家族の協力を得て、個々の馴染みの備品・備具をあつらえ、其々に応じた居心地良い生活の場とするよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分自身で出来る事は継続できるよう支援工夫している。		